

なお、今後、予測の前提としている飛行経路等に変更があり航空機騒音による影響が拡大することが懸念される場合には、必要に応じて、環境への影響を改めて予測、評価し、所要の措置を講じることとする。

### 3) 交通条件

年間旅客数、ピーク日係数からピーク日旅客数を求めた日旅客1人当たりの発生交通量からのピーク日の出入台数は表-6.1.2(4)に示すとおりである。

表-6.1.2(4) 算定条件

年間旅客数	2,597,000 (人/年)
ピーク日係数	1/300
ピーク日旅客数	8,660 (人/日)
日旅客当たりの発生交通量	1.04 (台/人)
ピーク日出入台数	9,000 (台/日)

### 4) 存在・供用上の諸対策

#### (1) 地下水保全対策

地下水保全対策は、地下浸透方式を原則とする雨水排水処理方法を採用する。

- ・ 空港計画地における琉球石灰岩を基岩とする透水性地盤については、地下水涵養源となっていることから、雨水排水は地下浸透により処理することを基本とする。
- ・ 透水性地盤における盛土区間は、現地盤への雨水の浸透対策として、地下水量及び地下水質への影響を回避するため、盛土構造に浸透ドレーン層を配置することとする。(図-6.1.2(1))

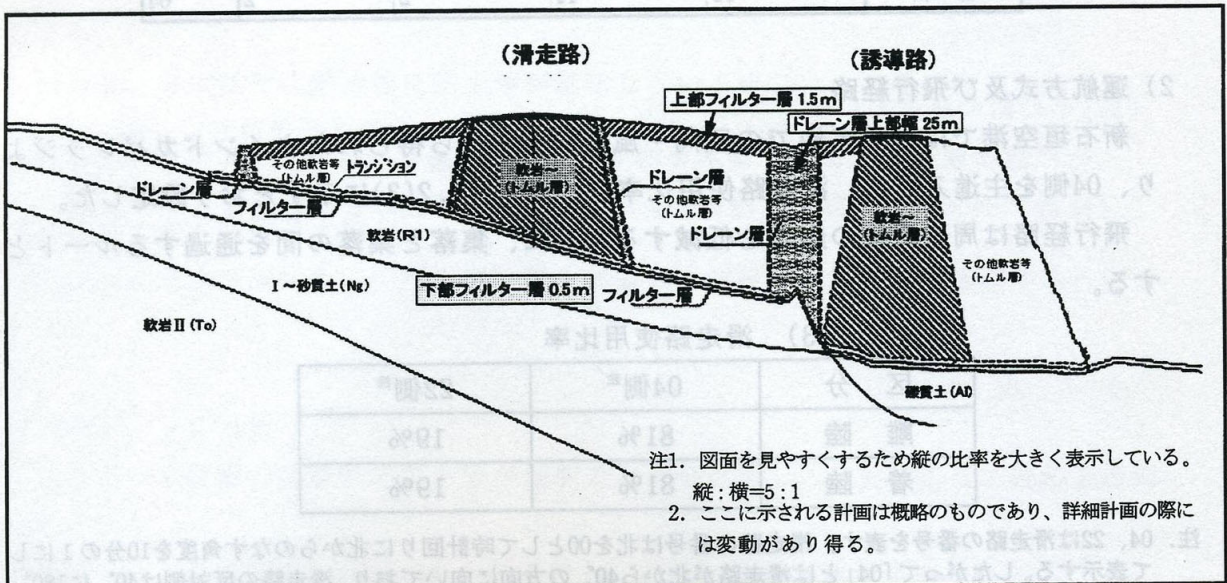


図-6.1.2(1) 盛土構造